

7月30日(金曜日)
ユーロ/円
ユーロ/ドル
豪ドル/円

米景気減速懸念・デフレ懸念

29日(木)の主な推移



- ① NZ準備銀行(RBNZ)が利上げ後の声明で「利上げのペースは一段と緩やかになる可能性がある」と表明した事でNZドル/円が急落すると、これにつれて豪ドル/円も77円台まで下落した。
- ② 欧州勢の参入後は、上海総合株価指数の持ち直しや時間外のNYダウ先物の上昇を背景にリスクを積極的に取る機運が高まり、ドルや円を売ってユーロや豪ドルを買う動きが強まった。
- ③ スイス中銀が次回9月16日の会合で、政策金利を0.25%引き上げるとの思惑が台頭した事で、ドル売り・スイスフラン買いが強まると、これにつれてユーロ買い・ドル売りが強まり、ユーロ/ドルは5月4日以来の高水準となる1.3105ドルを記録した。
- ④ ブラード米セントルイス連銀総裁が「米連邦公開市場委員会(FOMC)の『長期間』との文言は、米経済が日本のようなデフレに陥る確率を高めている可能性がある」と米国のデフレリスクを指摘した事でNYダウが急速に下げ幅を拡大すると、リスク回避の円買いが強まりユーロ/円は113.21円、豪ドル/円は77.73円の安値を付けた。

ユーロ/ドル、ユーロ/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから、円売り、高金利通貨買いの流れ(ユーロ/円上昇要因)
- ・米低金利政策長期化観測に伴う米長期金利の低下(ユーロ/ドル上昇要因)
- ・南欧諸国のソブリン・リスクの緩和(ユーロ上昇要因)
- ・米景気回復に伴う米長期金利の上昇(ユーロ/ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円買い戻しの流れ(ユーロ/円下落要因)
- ・南欧諸国のソブリン・リスク(ユーロ下落要因)

豪ドル/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから高金利通貨買いの流れ(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪利上げ観測に伴う日豪金利差の拡大(豪ドル/円上昇要因)
- ・株価、資源価格の上昇(豪ドル/円上昇要因)
- ・日銀による追加金融緩和観測(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪州中銀による利上げ観測の後退(豪ドル下落要因)
- ・株価、資源価格の下落(豪ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円買い戻しの流れ(豪ドル下落要因)

本日の見通し

本日の予想レンジ

ユーロ/ドル: 1.2920-1.3140ドル
ユーロ/円 : 112.50-114.30円

本日の予想レンジ

豪ドル/円: 77.20-78.50円

本日発表される米第2四半期国内総生産(GDP)・速報値への注目度が高い。第1四半期の確定値+2.7%から、やや成長率が鈍化すると予想されている。米景気の減速懸念を裏付けるような弱い数字が発表された場合、ユーロ買い・ドル売りが強まる可能性がある。ただ、本日は月末、週末が重なったため、ポジション調整が出やすい事には注意が必要だ。今月に入り、ユーロ/ドルは約7%、ユーロ/円は約5%上昇しており、一旦は利益確定の売りが出てもおかしくない状況であろう。(神田)

米国の景気減速懸念がくすぶる中、主要国の株価の上値は重くなりそうだ。また、本日は週末と月末が重なり、利益確定の売りが強まりやすい地合いにあると言えそうだ。そうすると、豪ドル/円もやや軟調推移が見込まれる。NY時間に発表される米第2四半期国内総生産(GDP)への注目度が高く、結果次第ではNY株価が急落するリスクも考慮しておきたい。(神田)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 日本時間での表示

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表	市場予想
7/30(金)	15:00		(独) 6月小売売上高指数 [前月比]	+0.4%	-0.2%
	18:00		(ユーロ圏) 6月失業率	10.0%	10.0%
	18:00		(ユーロ圏) 7月消費者物価指数・速報 [前年比]	+1.4%	+1.7%
	21:30	◎	(米) 第2四半期 GDP・速報値 [前期比年率]	+2.7%	+2.6%
	21:30	○	(米) 第2四半期個人消費・速報値 [前期比]	+3.0%	+2.4%
	22:45	○	(米) 7月シカゴ購買部協会景気指数	59.1	56.0
	22:55		(米) 7月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値	66.5	67.0

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。